

ふれあい記録

実施日：2026年4月16日（木）

当番 細矢清志、江口正彦(補)、田中宏巳

コース名：御岳山・日の出山

(通し番号 第216回)

天 候：快晴

参加者名：江口 正彦、熊谷 信雄、新海 昭、田中 宏巳、鶴岡 重典、西村 寿文、船橋 エイ子
松本 壮一郎、宮原 宏至、八角 真弓、和田 龍子

<ビジター>氏家 敬子、笠井 欣三

計13名（男性9名、女性4名）（五十音順）

交通：集合 JR 青梅線御嶽駅改札口 9:00

<往路>：京急金沢文庫 6:06 発→6:30 着京急川崎徒歩→JR 川崎南武線 6:43 発→7:44 着立川
青梅線 7:56 発→8:31 着青梅 8:37 発→8:57 着御嶽駅→御嶽駅バス停ス停 9:12→ケー
ブル下 9:22 着→滝本駅 9:40→御岳山駅 9:50

コースタイム：御嶽ビジターセンター 10:14 → 神社下 10:39→御嶽神社 10:54→日の出山
頂(12:00着昼食)12:50→高峰山 13:35→要害山 14:13→琴平神社 15:00→下山 16:00
→JR 日向和田駅 16:35 (*時間は出発時間)

<復路>：日向和田駅 16:38 発 → 拝島で八高線乗換→八王子 17:43→横浜 18:46 着

みどころ：

- ・尾根一帯の春の花々：下界の桜が終わったあとで、少し遅いと予断した。だが尾根の桜はピークを過ぎたものもあったが、春爛漫と咲き誇るものが少なくなかった。ソメイヨシノ以外の桜も素晴らしいことを改めて認識させられた。桜に劣らず圧巻であったのはミツバツツジであった。周囲の色と異なる山肌に清楚に咲くこの花の印象深さは格別なものがあり、満開時に見ることができたのは幸運というほかない。
- ・日の出山から眺める関東平野：前夜の雨が上がり、心地よい北風のおかげで、四月にしては眺望に恵まれた。フィールドに広がる東京や周辺の諸都市を特等席のスタンドから眺めているようなものである。西武ドームや横田飛行場青梅や八王子の市街地のほか、西方の大山や丹沢山系がよく見えたが、残念ながら筑波山や日光の山々は霞んで見えなかった。
- ・琴平神社、稲荷神社等の神社ロード：四つ、五つの神社が点在し、くぐった鳥居の数は十カ所を越えると思われるが、正確な数字はわからない。きつい山奥に航海の守護神として広く信仰された琴平神社があるのが不思議であった。

自然観察：

- ・尾根伝いは春真っ盛りで、人家の庭先で育てられた花々、人の手が入らず自然の力だけで咲く花々の別があるが、見分けがつかないほど花いっぱいであった。名前を知っている花だけでも、桜、ミツバツツジ、カラムラサキツツジ、のほか、ニリンソウ、スマレ、ボケ、シャクナゲ、山吹、馬酔木、紫大根、木瓜、木苺、花厨王、木伏・・・、藤はまだ蕾の状態であった。
- ・萌葱色の山を美しさは格別である。萌葱色にみなぎる生命の息吹を感じるため、見る者に希望と感動を与えてくれるためかもしれない。一年に一度だけしか見られないこの美しさを堪能できたことに感謝したい。

特記事項：

- ・尾根道では花を話題に賑やかであったが、降るにつれて杉の人工植林帯になると、みな静かになった。下草がなくなり、一輪の花もなく、話題になるものがなくなったからである。人工の植林帯では動物も住めないことも理解できる。
- ・参加者から、年々歩く速度が遅くなり、コースタイムの設定が難しくなっているという指摘があった。おそらく平均年齢が八十歳に近づいているためと思われる。まず事故の発生を防止するのが第一であろう。